# 令和７年度　学校評価報告書（目標設定・実施結果）

| | 視点 | ４年間の目標<br>（令和6年度策定） | １年間の目標 | 取組の内容 | | 校内評価 | | 学校関係者評価<br>（３月 16 日実施） | 総合評価（３月 23 日実施） | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 具体的な方策 | 評価の観点 | 達成状況 | 課題・改善方策等 | | 成果と課題 | 改善方策等 |
| 1 | 教育課程<br>学習指導 | ①主体的な学びを強化し、学力を向上させると共に、思考力・判断力・表現力を深め、社会に貢献できる人材を育成する。<br><br>②探究的な学びを取り入れた学習指導により、生きる力を育み、自分をより良く変える力を培う。 | ①本校の最上位の目標の一つである「自ら考える力」を育むための学習指導の工夫と組織的な授業改善。<br><br>②全ての教員が、より高い学習効果を目指した ICT 機器の効果的な活用。<br><br>③学力の向上を目指した外部試験や AIS との連携や探究カリキュラムの研究。 | ①生徒自身が思考する時間を授業内で確保する授業実践を、日々の授業において意識的に行う。<br><br>②職員研修（ロイロノートや電子黒板に関する研修）を通じて、ICT 機器の操作方法や活用方法などを教職員で共有し、一人一台端末を利活用する授業の学習効果を向上させる。<br>③外部試験の実施及び学習アプリの活用により、学習意識を高めるとともに、AIS の活用によってより高い目標の実現を目指す。<br>③各教科でＳＤＧｓの視点や探究的視点で組織的な授業改善を行い、教科横断的に探究カリキュラム（「maioka project」）を実践する。 | ①生徒対象のアンケートにおいて、４段階評価の平均値が３．０以上であったか。<br>②一人一台端末をより効果的に活用できたか。<br>③外部試験の実施や学習アプリの活用、AIS の活用について効果的な実践がなされたか。<br>③探究カリキュラムが充実し、生徒の効果的な学習につながったか。 | ①日々の授業において、電子黒板や一人一台タブレット端末、ICT 教材等を活用し、生徒自身が思考する時間の確保に努めた。その結果、生徒対象の授業アンケートにおける質問項目「課題について自分の考えをまとめたり、解決方法について考える場面がある」の評価の平均値は 3.17 と 3.0 を上回ることができた。<br>②ICT 利活用を進めるために、ロイロノート研修で、使用法や実践事例を共有した。また多くの授業で電子黒板を活用した。一人一台端末の効果的な使用を目指し、クラスルームを通じた資料配付・授業内容の振り返りを入力・探究での論文執筆等を行った。<br>③SDGs や探究の視点を持った授業実践を研究授業として行い、組織的な授業改善につなげた。 | ①考える授業は定着しつつあるが、定期試験や模擬試験などの結果を見る限りは思考力が問われるような問題の正答率が飛躍的に高まっているとまでは言えないため、そのような問題にも粘り強く取り組めるような生徒の育成をめざして、引き続き授業改善に取り組んでいきたい。<br><br>②引き続き、職員研修を充実させる。また ICT 支援員と連携を取り、効果的な ICT 利活用を進める。<br><br>③生徒の状況に合わせた探究カリキュラムを発展させるとともに、教科横断的な授業実践を実践集として、引き続きまとめていく。 | ・職員研修における授業での実践事例の共有は有意義である。教員間の得手不得手の差が縮まり授業の標準化が図られ、質の高い授業の実現につながっている。<br>・ICT 利活用の推進に取り組み、成果が認められる反面、生徒がレポート作成を生成 AI に依存する傾向が進むと、考える力が失われていくことも危惧されるのではないか。 | ①日々の授業において ICT 教材等を活用し、全職員が、生徒自身が思考する時間の確保に取り組んだ。<br>②職員研修により学習アプリの使用法や実践事例の共有を効果的に行い、質の高い授業実践につなげた。<br>③組織的な授業改善のために SDGs や探究の視点を持った授業実践を研究授業として行った。 | ①生成 AI の効果的な活用法や AI リテラシーの指導も行いながら、主体的に思考する力の向上に引き続き努めていきたい。<br>②職員研修をさらに充実させ、ICT 機器の効果的な利活用を推進する。<br>③探究カリキュラムをさらに発展させるとともに、教科横断的な授業実践を継続して、組織的な授業改善につなげていく。 |
| 2 | 生徒指導・支援 | ①18歳成人を念頭に置いた生活指導を実践し「良き大人」として、社会に貢献できる人材を育成する。<br><br>②生徒の主体的な活動を指導、支援し、他者と協働する意識を強化し、豊かな人間性と健全な社会性を育む。 | ①18 歳成人を念頭に置いた生活指導。及び、舞岡高校生としての自覚の確立。<br><br>②一定程度の結果を目標とした緊張感ある部活動の指導。<br><br>③課外活動の指導や生徒会・委員会活動等を通して生徒の主体性をより育み、他者と協働できる心をより豊かにするための日常的な指導。 | ①定期的に登下校時のマナー、身だしなみ指導を重点におき、基本的生活習慣の定着に向けた指導を行うと共に、18 歳成人は大人として扱われることが認識できる指導をし、責任ある行動がとれるように指導を行う。また、生徒の状況を把握し教育相談体制を組織し支援に向けた対応を図る。<br>②所属する部活動に生徒が真摯に向き合い、目標を共有し協働して取り組む姿勢を常に意識させる。<br>③学校行事の実施時期や内容を生徒が主体的に計画し、協働的に動ける体制や雰囲気を醸成する。<br>③部活動への勧誘活動を充実させる。また、部活動の成果を昼休みに放送したり、ホームページへの掲載、正門横の掲示板の活用等を通じて生徒や保護者、中学生、地域等に発信し、部活動の活性化を図る。 | ①基本的な生活習慣・身だしなみが整うことや社会人に必要なマナーと 18 歳成人としての自覚を生徒に定着させることができたか。<br><br>②各部で設定した目標が達成できたか。<br><br>③生徒会行事や委員会活動内容で生徒が主体的に取り組むことができたかアンケート等で確認する。<br>③各部活動の加入数調査や入部割合を調査する。<br>③表彰式や成果の発信等により部活動の活性化が図れたか。 | ①登下校のバス・自転車等のマナーについて地域の方から指摘を頂き、その都度生徒に向けて注意喚起を行った。携帯電話の不適切な使用に対し指導を行い、生徒の携帯電話使用に対する認識を改めた。教育相談ではコーディネーターを中心にＳＣ・ＳＳＷと連携している。成人の自覚は３学年を中心にＨＲや授業において説明を行った。<br><br>②体育祭については、前年度から準備委員会を開催して、よりよい実施内容の検討を進めた。安全上の過密を避けるため保護者参観者数を制限して実施した。<br>桔梗祭は昨年度実施した内容や改善点を考慮して取り組み、一般公開では昨年度をうわまわる３千名を超える来場者を集めた。新装となった体育館での公演や後夜祭での花火を実施した。<br><br>③部活動の活性化を図るため、年度初めには新入生への部活動紹介や体験入部期間を設定した。新入生の部活加入率は概ね 73.9%で昨年度と比較して約４%上昇している。 | ①日々の生活で基本的生活習慣を定着させることが概ねできたが、バス・自転車乗車時のルール・マナー等については、効果的な支援の方策を模索しながら、日常的な指導へつなげていきたい。また、相手を尊重できる人権意識や他者を認め合う思いやり教育を支援の根幹としながら、なお一層、舞岡高校生としての自覚を促していきたい。<br><br>②新たな内容で行った文化祭についての評価を、文化祭実行委員会を中心に行いながら、さらに充実した内容を目指す。<br>②前年度同様安全対策を盛り込んだ活動マニュアルの指針を示し実施したが、今後も定着を図っていく。<br><br>③上部大会出場選手の壮行会を行い、地域へは横断幕や掲示板を用いて大会出場を周知した。さらに工夫を重ね部活動の活性化を図っていく。 | ・部活動の加入率上昇により部活動が活性化されることは、地域の目から見ても大変望ましいことである。<br>・登下校時のバス・自転車乗車時等のマナーについては地域からも高い関心が寄せられる課題である。令和８年４月から自転車の交通違反にも青切符が導入され、反則金を課される可能性もあるので、一層の注意喚起を望む。<br>・地域で見る限り、生徒の挨拶等とても素直で良い印象がある。 | ①登下校のバス・自転車乗車時等のマナーについて、日常的に生徒に向けて注意喚起を行い公共の場でのルール・マナーについて自覚を促した。<br><br>②文化祭等の学校行事は生徒会や実行委員を中心に主体的・協働的な運営が定着しつつある。<br><br>③部活動や委員会活動の活性化により、地域からは高い評価を得られる場面が増えている。 | ①公共の場でのルール・マナーの指導に加え、相手を尊重できる人権意識や他者を認め合う思いやり教育を生徒支援の根幹としながら、なお一層、舞岡高校生としての自覚を促していきたい。<br>②学校行事では生徒の主体的・協働的な取組を継続して支援していきたい。<br>③部活動・委員会活動の活性化については、さらに工夫を重ね、地域へ発信していきたい。 |

| | 視点 | ４年間の目標<br>（令和6年度策定） | １年間の目標 | 取組の内容 | | 校内評価 | | 学校関係者評価<br>（３月 16 日実施） | 総合評価（３月 23 日実施） | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 具体的な方策 | 評価の観点 | 達成状況 | 課題・改善方策等 | | 成果と課題 | 改善方策等 |
| 3 | 進路指導・支援 | ①進学先の向こうにある社会」を具体的に意識し、自主的に職業、生き方、社会への関わり方について生徒の理解を深めさせ、生徒の希望する進路実現に向けたｷｬﾘｱ教育を推進する。 | ①３年間を見据えたキャリア教育の強化と生徒の進路決定の支援をより強くするためのプログラムの開発。<br>②進路の実現を支援できるための、外部機関も含めた、進路指導の実践。 | ①キャリアパスポートを活用し、生徒自らが自己を知り適性に気付かせる。<br>①大学体験（１年次）、模擬授業（２年次）、舞岡オープンキャンパス（３年次）という３年間を通じたプログラムを実施する。<br>②多種多様な季節講習の実施やAIS の活用、外部資格試験や外部模試の実施機会を充実させる。 | ①キャリアパスポートを効果的に活用できたか。<br>①３年間を通じたプログラムによってどのような成果があったか考察する。<br>②それぞれの取り組みについて効果的な実践がなされたか。 | ①生徒自ら自己分析や適性を知るためにキャリアパスポートの活用が進んだ。<br><br>②各年次で進路行事を実施すると共に、インターンシップ・仕事の学び場などに参加できる環境を整備できた。<br><br>③長期休業中に多様な講座を設置すると共に、AIS を活用して外部講師による講義を実施できた。また、外部資格試験を校内で行い、資格取得を促進した。 | ①探究活動と連携を取り、探究の成果を進路につなげていくことが今後の課題である。<br>②３年間を通じた行事を行うことで、一貫した指導ができるようになった。今後は生徒の進路決定の支援となる行事の企画・精選が必要になる。<br>③長期休業中の講座のより一層の充実と、課業期間を含めて外部資格取得に向けた講座の設定を検討していく。 | ・進路選択のために様々な機会を提供されていることがよくわかった。<br>・やりたいことを見つけ、そのために必要な上級学校を目指せるよう、生徒が目標を持てるような指導を続けてほしい。 | ①自己分析や適性を知るためのキャリアパスポートの活用を進めた。<br>②外部資格試験を校内で行い、資格取得を促進した。 | ①学習サービスと連動させてキャリアパスポートの活用をさらに進める。<br>②外部機関との連携をさらに進めながら、生徒の進路実現に向けた支援を拡充していきたい。 |
| 4 | 地域等との協働 | ①新たな手立てを講じ、より効果的な地域連携を実践する。<br><br>②分教室との連携を更に深め、共生社会に資する力を育む。<br><br>③同窓会、地域、行政等と連携し、双方向での支援が実現できる体制を研究する。 | ①地域連携について引き続きこれまでの取り組みを精査する。<br><br>②地域連携委員会の計画的で積極的な活動のための指導。<br><br>③多方面からも興味を持たれ、親しまれるホームページの研究と実践。<br>③関係各機関と連携しより良い 50 周年記念式典の実施。 | ①分教室との交流をより深めるため新たな企画や内容の改善について検討する。また、分教室生徒会執行部との交流で朝のあいさつ運動を実施する。<br>①地域連携委員会や部活動の生徒を中心に地域や外部機関と連携を深めていく。<br>②２年目をむかえた地域連携委員会がより生徒主体で活発な「マイタケプロジェクト」を実践し、地域や企業との連携を深化させる。<br>③ホームページ・ＳＮＳ等のレイアウトや情報量を工夫し、わかりやすく正確に情報を広報する。更新頻度を上げ、最新の情報を発信する。<br>③関係機関と連携し、多くの場面で生徒が活躍できるような記念式典を実施する。 | ①地域連携の実践をどれだけ充実できたか。新規の活動をどれだけ具体的に実現できたか。<br>①委員会がどれだけ活発に活動できたか<br><br>②委員会活動等でより活発に活動できたか。<br><br>③広報活動の充実を図れたか。<br>③生徒が活躍できる機会を多く作り、生徒主体の式典を実施することができたか。 | ①分教室との交流事業を可能な限り実施した。7 月に七夕竹の宴、9 月に「桔梗祭」での販売・アトラクション（ボッチャ）、10 月に地域連携委員会主体の地域貢献デー（地域の清掃活動）等への参加。<br>①地域連携委員会が、地域の祭りでのボランティア活動を行った。また飲食店のメニュー開発に新たに取り組んだ。<br>②地域探究における訪問先事業所を確定し、生徒がインタビューする準備をした。訪問先を生徒の希望に沿う形態としたことで、より熱意を持って参加する姿が見られた。これらにより事業所との信頼関係の構築に努めた。<br>③ホームページ・ＳＮＳ等を頻繁に更新し、正確に情報を伝えた。校門前掲示板を積極的に活用し、地域の方々に本校の様子を紹介するなど、多様な情報発信を行った。<br>③生徒が活躍できる機会を多く作り、生徒主体の式典を実施できた。 | ①今年度の分教室との交流内容を振返り、次年度に向けた交流計画を検討する。<br>①地域連携委員会での活動内容を全職員等が共有するための報告会等を実施し、活動を推進できるような体制を引き続き構築する。<br><br>②地域事業所との持続可能な連携を目指し、作成した成果物などを事業所と共有することで、引き続き互恵関係を構築していく。<br><br>③古い情報等を整理するために、各部署へ協力を促した。生徒会広報や写真部と協力し、広報活動をさらに広げていく。<br><br>③記念事業の成功を支えに同窓会や地域との連携をさらに深めていく。 | ・創立 50 周年記念式典では在校生による司会進行や、実績ある卒業生のパフォーマンスを通して、舞岡高校の魅力と伝統を感じることができる、大変素晴らしいものであった。<br>・引き続き地域行事への参加などを通じて、地域と顔の見える関係づくりにご尽力いただくことを期待する。<br>・ホームページにおいて情報が更新されていないページは更新してほしい。 | ①学校行事や記念式典等において、分教室との交流を可能な限り実施することができた。<br><br>②発足２年目となる地域連携委員会が地域連携の核として活動できている。<br><br>③ホームページ・ＳＮＳ等の更新に努め、地域への情報発信に努めた。 | ①分教室とは新たな交流も模索したい。<br><br>②周辺地域からは高校生のマンパワーが求められており、生徒へ交流の機会を促すことで、生徒自身の自己有用感を育むとともに、地域貢献を一層拡充していきたい。<br>③ホームページについて、更新されていないページがないよう管理を着実に行い、地域への正確な情報発信を進める。 |
| 5 | 学校管理<br>学校運営 | ①引き続き、不祥事ゼロを実践する。<br><br>②働き方改革について、組織的に考える。<br><br>③引き続き、生徒の安全で安心な諸環境を維持または改善する。 | ①不祥事防止については日常的に心に留める事ができる手立ての実践。<br>②一人ひとりが、よりメリハリのあるワークライフバランスを実践できる職場環境の構築。<br>③校内美化を更に推進すると共に、環境に配慮する心や、考える力を育む指導の研究。<br>③災害等に対する危機感や非常時の行動についての指導。 | ①引き続き粘り強く不祥事防止の手立てを講じる。<br><br>②保護者や地域の理解を得ながら、学校の働き方改革を加速化させる。<br><br>③日々の清掃活動や学校行事でのごみ処理活動を通して、校内の環境美化への意識を高める。<br><br>③避難訓練やＤＩＧを通して、災害等への意識を高め、行動できるように指導を行う。 | ①効果的な手立てを考え実践することができたか。<br>②職員の業務負担を軽減させ生徒と向き合う時間を確保することができたか。<br>③環境委員を中心として、教室や階段、トイレ等の公共スペースを清潔に保つことができたか。<br>③自然災害を身近に起こりうるものとして考え、危機感を持って取り組むことができたか。 | ①教職員間で不祥事を自分事として考え合う機会とするために、ロールプレイングを含んだ不祥事防止研修会を実施した。<br><br>②電子黒板など ICT 機器の活用や採点システムを導入することで学校業務のデジタル化を進め業務の効率化を図った。<br><br>③職員の監督のもと、各クラス環境委員を中心に清掃活動に精力的に取り組み、校内が清潔に保たれるよう、日々努力を重ねた。<br><br>③避難訓練（校内実施）やＤＩＧを通して、自然災害を身近なものとして捉え、自分が取るべき行動について考察した。 | ①朝の打合せなども利用して、不祥事防止の話題を折に触れ提供し、教職員が日常的に、不祥事は他人事ではなく自分事として考える機会を増やしていく。<br>②サポート人材の効果的な配置や働き方改革への協力呼びかけなどにより、教職員の長時間勤務の是正やウェルビーイングの向上に向けた取組を進める。<br>③環境委員などの一部の生徒だけでなく、全生徒に対して環境美化への意識づけを行う（壁のペンキ剥がしの事例があったため）。<br>③今年度は悪天候により避難訓練の内容を完全に実施することができなかったため、今年度改良した内容の精査は来年度に繰り越したい。ＤＩＧについて、生徒の集中力が最後まで持続できない場面があったため、内容を再検討したい。 | ・不祥事は日常の些細な判断から生じる可能性もあることを踏まえ、その未然防止には職員間の継続的な意識共有が重要である。<br>・地震等の自然災害への備えは、生徒を守ることに加え、地域の防災力の向上にも資する大切な取組であり、引き続き力を入れて取り組んでほしい。 | ①不祥事防止について職員が日常的に考える機会を設けた。<br><br>②学校業務のデジタル化を進めることで業務の効率化を進めた。<br><br>③防災教育や環境美化活動をはじめ、生徒にとって安全安心な教育環境を整備することができた。 | ①教職員が日常的に、不祥事は他人事ではなく自分事として考える機会を増やしていく。<br>②教職員の長時間勤務の是正やウェルビーイングの向上に向けた取組を進める。<br>③生徒にとっての安全で安心な教育環境を維持し、さらに改善を進めていく。 |